

－「里親」意向に関する意識・実態調査－

里親になってみたい意向者は約 6%

潜在的な里親家庭候補は全国に約 100 万世帯

児童福祉法の改正を受けて 2017 年 8 月に厚生労働省が発表した「新しい社会的養育ビジョン」では、里親委託率について未就学児 75%以上（概ね 7 年以内）、学童期以降は 50%以上（概ね 10 年以内）とする数値目標が盛り込まれており、そのためには約 1 万 3700 人の子どもを新たに里親に委託する必要があると試算されています。¹日本財団（東京都港区）は、今後の喫緊の課題となる里親リクルートに役立terることを目的として、2017 年 11 月、全国の 20 代～60 代の男女を対象に、里親²の意向および認識についてインターネット調査を実施しました。

調査結果の概要

- 全国 20 代～60 代の男女の 6.3%が「里親になってみたい」「どちらかというと里親になってみたい」と回答。
- 里親の認知度については大半が「名前を聞いたことがある程度」。『里親への経済的なサポートの存在』『子どもを預かる期間は様々である』などはほとんど知られていない。
- 里親になる意向はあっても、経済面の心配や、子どもが大きくなるまで健康でいられるか分からないと不安がハードルになっている。
- 里親の認知や里親になる意向を高める情報源として、テレビが大きな役割を果たしている。
- 日本では里親が不足しているなど、子どもや里親に関する情報を提供することで、潜在的な里親候補家庭は推計で 12.1%に倍増する可能性がある。

里親になってみたい意向者は 6.3%

調査の結果、6.3%が里親になる意向がある（「里親になってみたい」もしくは「どちらかという」と里親

¹ 厚生労働省 「第 22 回社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会」 参考資料 1

² 本調査では養育里親の認知や意向を対象としており、養子縁組を前提とした里親については除外しています。

になっていた)」と回答しました。里親の対象となる世帯として30代～60代の「夫婦のみの世帯」と「夫婦と子どものみ世帯」を想定し、そこから生活保護世帯を除いた数はおよそ1,780万世帯であることから、本調査の結果を踏まえると、その約6%にあたる106万世帯が潜在的な里親意向者であると推計されます。³

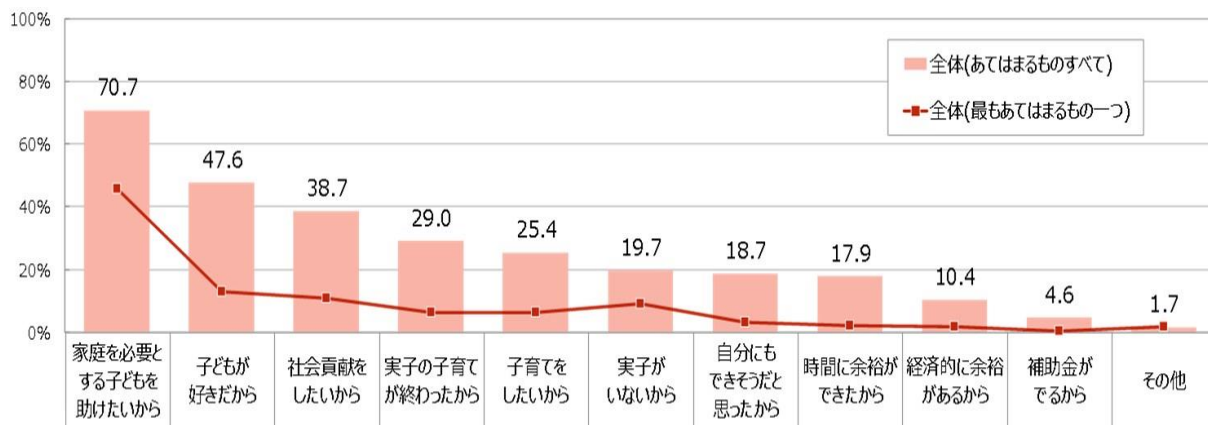
里親へ経済的なサポートがあることなどは、ほとんど知られていない

里親の認知については大半が「名前を聞いたことがある程度」と回答しており、あまり一般に浸透していない実態も浮き彫りになっています。また、特に「里親には子どもの生活費として養育費が支給される」(1.9%)、「養育費とは別に里親手当が支給される」(1.2%)、「2ヶ月などの短期間でもできる」(2.6%)「結婚していなくても、大人が2人以上住んでいればできる」(2.7%)といった、経済的なサポートを始めとした里親制度そのものや、「日本には里親を必要としている子どもが3万人いる」(3.2%)といった里親の現状については、ほとんど知られていないことも明らかになりました。

(括弧内の数字は、全体ベース(1,500サンプル)の「知っていた」と回答した人の比率)

里親の意向があると回答した人のうち、里親になってみたい理由としては「家庭を必要とする子どもを助けたいから」が7割で圧倒的に高く、続いて「子どもが好き」「社会貢献をしたい」「実子の子育てが終わった」などが続きました。

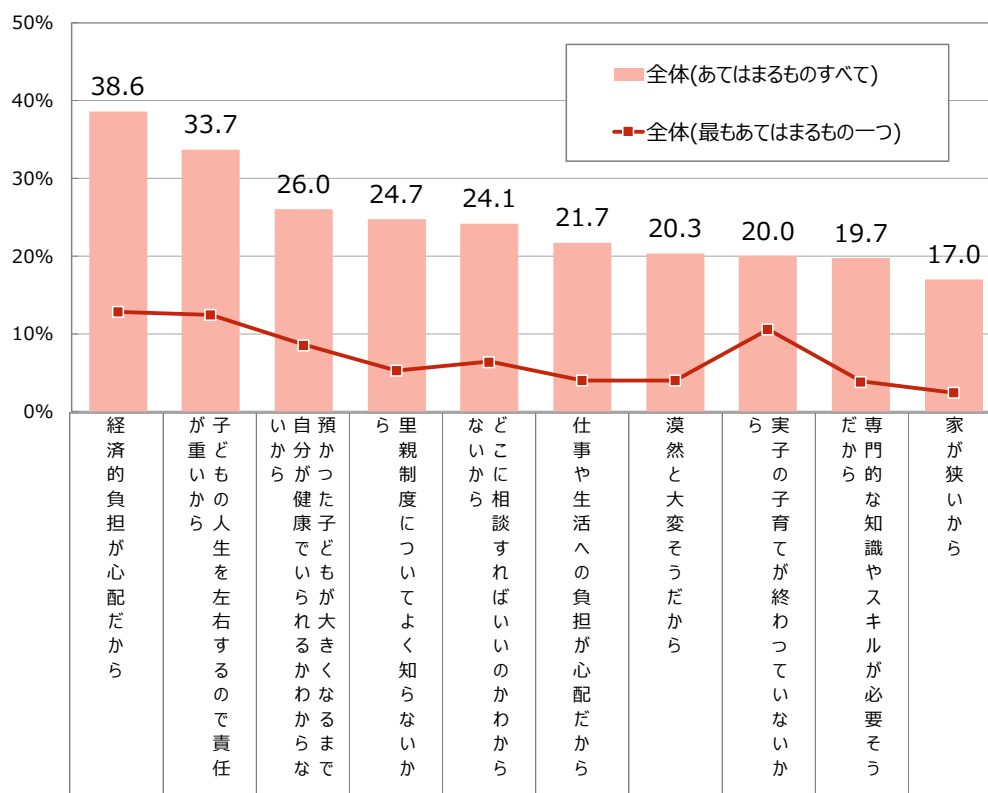
里親になってみたい理由（里親意向者ベース）



実際、里親の意向があると回答しながらも現状では里親になっていない理由として(情報提供前)、「経済的負担への心配」「子どもの人生を左右するので責任が重い」「預かった子どもが大きくなるまで自分が健康でいられるかわからない」などの不安や負担感が上位を占めています。

³ 平成27年度の国勢調査で30代～60代の「夫婦のみ」「夫婦と子どものみ」と回答した世帯数から、世代別の生活保護率(平成27年、厚生労働省)の相当数を差し引き、本調査結果の里親意向の割合を掛け合わせて算出。

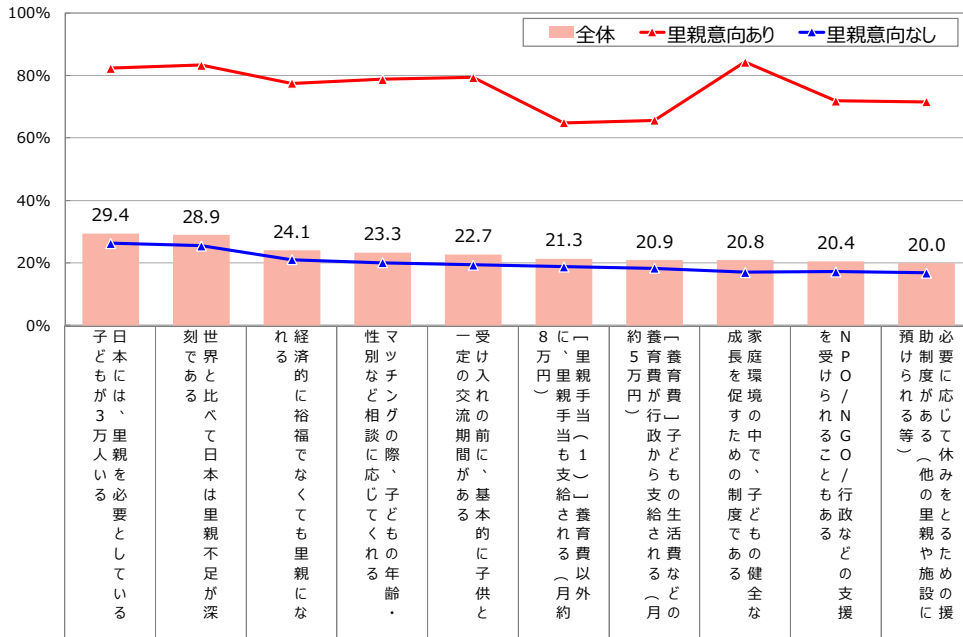
里親の意向はあるが、現状里親になっていない理由（里親意向者ベース）



子どもの写真提示や里親制度についての情報提供が意向を高める

里親への興味を高める情報としては、特に『日本には里親を必要とする子どもが3万人いる』『世界と比べて日本は里親不足が深刻である』『経済的に裕福でなくても里親になれる』など、社会的養護下にある子どもの現状や、里親制度そのものに関する情報であることが分かりました。当初は里親になる意向がなく、情報提供後に意向がありに変化した回答者は、具体的な理由として「日本が里親制度で遅れている点、困ってる子どもたちがいる」(32才、女性)、「経済的な負担なく社会貢献できそうのため」(40才、男性)、「思ったほどハードルは高くないかもしれないから」(60才、男性)と回答しています。

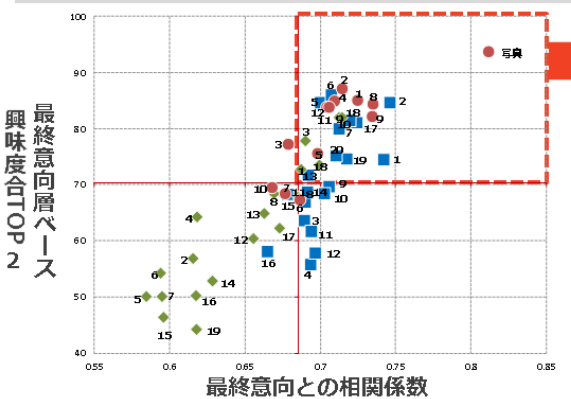
里親への興味が高まる制度や取り組みについての情報



また、実際に里親を必要としている子どもの人となり（好きなことや性格など）や、子どもの写真の提示も、意向を高めるのに効果的であることも明らかになりました。以下に示した相関図（左）は、調査の中で提示した具体的な情報と、最終的な意向との関係を表したもので、右上の位置にあるほど意向との相関関係が高く、かつ興味をもたれる度合も高い情報であることを示しています。またその隣に示した一覧（右）は、相関関係の高い順に情報を列挙したものです。子どもの写真や人となり、具体的な里親のなり方、里親の留意事項などを知ることが有効である他、「家族や親族の理解を得る」「気軽に相談できる場所や相手の存在」などの条件が揃うことも、意向を高めるのに有効であり、里親リクルートの際にはこのような情報を発信することが効果的であることが分かります。

里親になりたいという意向と相関性の高い情報（最終意向層）

各インプット内容と最終意向との相関ポートフォリオ



※赤線は「現状詳細」「望む条件」「知りたい事」「写真呈示」全項目の平均値
●最終意向層ベース
●興味度合TOP2：70.3%
●最終意向（Q19）との相関係数：0.685

■ 現状詳細
◆ 望む条件
● 知りたい事+写真呈示

興味度合が高く、最終意向との相関も高い有効なコミュニケーション内容

内容	相関係数	TOP2スコア
知りたい事+写真呈示 13 写真呈示	0.812	93.7
現状詳細 2 家庭環境の中で、子どもの健全な成長を促すための制度である	0.746	84.6
知りたい事+写真呈示 8 具体的な里親のなり方	0.735	84.3
知りたい事+写真呈示 9 里親になるための留意事項	0.735	82.1
知りたい事+写真呈示 1 子どもの人となり（顔写真や好きな事など）	0.725	85.1
現状詳細 17 マッチングの際、子どもの年齢・性別などに相談に応じてくれる	0.724	81.0
現状詳細 18 受け入れの前に、基本的に子供と一定の交流期間がある	0.720	81.5
現状詳細 19 必要に応じて休みをとるための援助制度がある（他の里親や施設に預けられる等）	0.718	74.6
知りたい事+写真呈示 2 子どもの背景（これまでの暮らしがや里親を必要としている背景など）	0.715	87.1
望む条件 10 家族・親族・同居人の理解が得られれば	0.714	82.0
現状詳細 7 経済的に裕福でなくても里親になれる	0.712	80.0
望む条件 9 気軽に相談できる場所・相手がいれば	0.712	82.0
現状詳細 20 NPO/NGO/行政などの支援を受けられることもある	0.710	75.2
知りたい事+写真呈示 4 どのような精神的サポートが受けられるか（相談など）	0.709	84.9
現状詳細 6 世界と比べて日本は里親不足が深刻である	0.708	86.0
知りたい事+写真呈示 12 実際に里親に預けられた子どもたちの体験談	0.706	83.8
知りたい事+写真呈示 11 里親たちの体験談	0.704	83.8
現状詳細 5 日本には、里親を必要としている子どもが3万人いる	0.700	84.6
望む条件 18 行政（児童相談所など）の態度が友好的ならば	0.699	73.5
知りたい事+写真呈示 5 どのくらい里親を待っている子どもがいるのか	0.698	75.5
望む条件 3 時間に余裕があれば	0.690	77.8
望む条件 1 養育費などの金銭面のサポートをさらに得られれば ※現状計 月13万円	0.687	72.7
現状詳細 1 他人の子を家庭で育てる制度である	0.742	74.4
現状詳細 13 子どもを預かる期間が2か月以内などの短期間で里親になれる	0.692	71.6

本調査で利用した子どもの写真イメージ*



ゆうくん 3か月

ぶよぶよとしたほっぺが、とても愛らしい、ゆう君です。毎日勢いよくミルクを飲み、足りないときもあるほど。ミルクの時間になるとちょうどお腹もすくようで、周囲が驚くぐらいの大きな声で泣いて知らせます。たっぷり飲んでよく寝て、すくすくと成長しています。

起きているときは、足でマットを蹴るなど元気いっぱいです。抱っこされるのも好きようです。身長58.6センチ、体重5.6キロ。里親として育ててくださる方を探しています。

さくらちゃん 2歳2か月

草花が大好きな、さくらちゃんです。近所の公園にいったら、職員さんやお友達にお花を摘んであげたりして喜ばせてくれます。

友達が泣いていたりすると、そっとそばに行ってよしよししてあげたりと、優しい女の子です。でも、困ったり疲れたりすると「抱っこ」と言って甘えたりする一面も。身長85.7センチ、体重12.5キロ。里親として育ててくださる方を探しています。





ようたくん 3歳11か月

公園遊びと虫取りが大好きな元気いっぱい、ようたくん君です。いつもお友達と一緒に仲良く公園で遊んでいます。

夕食の時間が近くなると、「今日はな～に？」と毎回きくほど、食事が楽しみな食いしん坊さん。ご飯とみそ汁は励まされないと食べないのに、おかずは嬉しそうに好んで食べます。特にプロッコリーとカボチャが大好きで、いつもお代わりします。身長99.7センチ、体重15.6キロ。里親として育ててくださる方を探しています。

*これらの写真および紹介文は、あくまでイメージであり、実在するお子様ではありません。

里親の認知や意向に繋がったきっかけはテレビが多い

本調査を行う前から里親について知っていた、また里親になりたいと意向を持つに至ったきっかけ（情報源）については、大半の人がいずれもテレビ番組と回答しています。里親の心情にフォーカスしたもののや、実子がいる中で新たな家族を築くストーリーなどのドラマやドキュメンタリーが心に残りやすく、テレビは重要なコンタクトポイントとなっています。

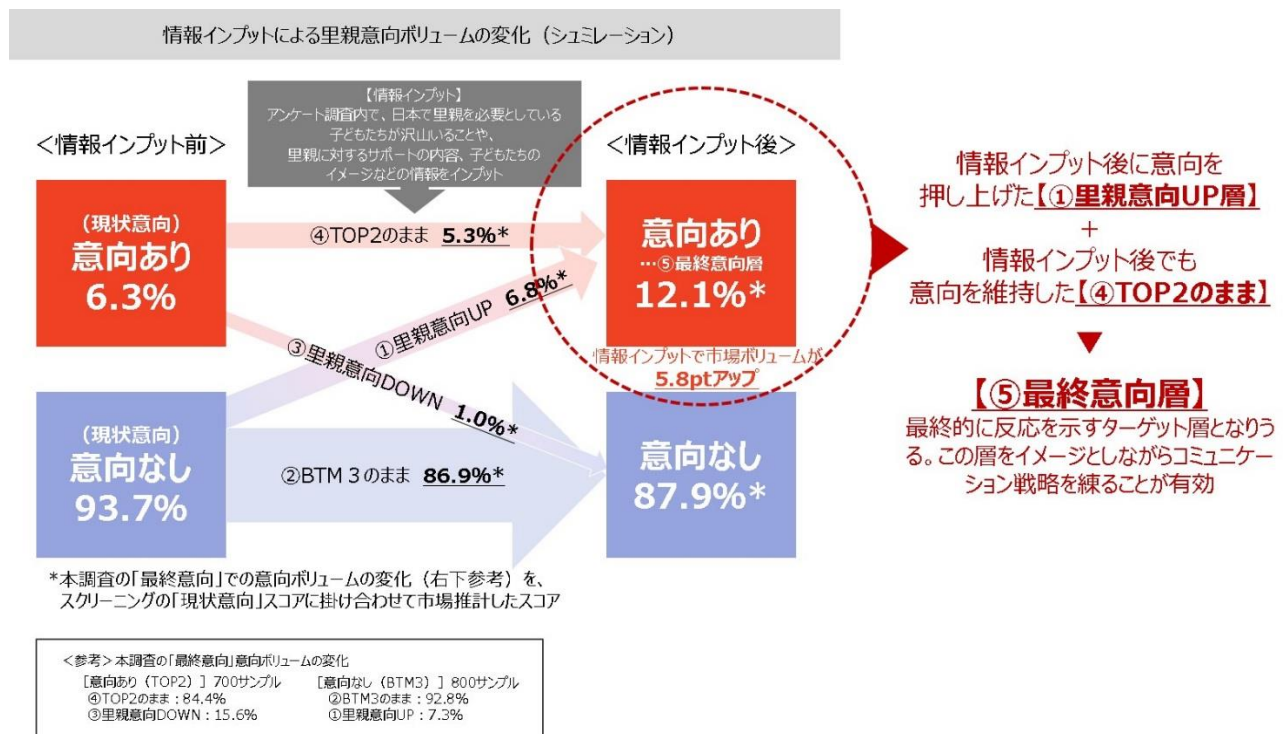
意向を持つきっかけとなった情報源（里親意向者ベース）

	里親認知の媒体	里親になる意向を高めた媒体	
テレビ	◎ 72.0%	◎ 58.9%	<ul style="list-style-type: none"> 里親になった人のドキュメント番組を見たことがある。大変だなと思いつつ見ながら見ていたが、親になった人の気持ちのゆるぎない強さが印象に残っている 実子も里子と一緒に生活していて、里親さんも特別なことをしているようには感じられずとてもよかった。
新聞	○ 29.7%	△ 17.6%	<ul style="list-style-type: none"> 朝日新聞等で日本は里親制度が浸透していないとの記事でした。私の出身校の近所に孤児院がありました。でも親のいない子どもは少なく親の事情で預けられた子どもたちはわかりました。新聞記事を読んでやっぱり里親制度は必要だと思いました。
本	△ 14.6%	△ 8.1%	<ul style="list-style-type: none"> 小説。実子のいる家族が両親を失った子どもを引き取って育てていく物語 教職を取っていたのでその時に読んだ本。児童教育の現状を扱っていた。
ニュースサイト / アプリ	△ 16.7%	△ 8.1%	<ul style="list-style-type: none"> 実子も有する普通の人が里子を含めて温もりある大家族を自然体でやっている 実際に子どもを迎えた人。子どもが出来なくて長らく不妊治療などを経てそういう選択をした人などの例
友人・知人	△ 10.1%	△ 5.9%	<ul style="list-style-type: none"> 実子と年の離れた子をしっかり実子のように育てている姿を目の当たりにして。 うちの兄夫婦が、実際養子縁組をして里親となった。

情報インプットで里親の意向者が推計で倍増

日本には里親を必要とする子どもが3万人いること、それに対して里親不足が深刻であること、里親には経済的なサポートがある等の情報を提示すると、里親意向がない層から里親意向がある層に移動する人がいました。一方で、「やっぱり責任があり大変そう」「子どもがかわいそうだという気持ちはあるが、育てる自信がない」と里親意向がある層から里親意向がない層へ移動した人もいました。

最終的な里親の意向者は、6.3%から推計で12.1%にまで増える可能性があることが分かりました。



当初から里親になる意向があり、情報提供後も里親になる意向が変わらないとした回答者も、その理由について「制度が思ったよりもしっかりしているので、現状難しいが将来的に受け入れたいと思ったから」（35才、女性）、「（里親になることが）可能だし、役に立てるなら」（52才、女性）、「自分にもできると思った」（69才、女性）「短期でもやれるのであれば少し気軽になる」（46才、男性）と回答しており、既に里親について知っていて、関心を寄せている層にも、改めて里親の制度などについて情報を提供することが有効だと考えられます。一方、当初は里親になる意向があったものの、情報提供を受けたことで最終的に里親になる意向がなくなった人は、その理由について「やっぱり責任があり大変そう」（60才、女性）、「やってみたいが出来る自信がない」（60才、男性）と回答しており、制度をよく知ることによって実感がわいた結果、やはり難しいという判断に至っていることが分かります。

里親意向者のターゲット層

里親になる意向があると回答した人の特徴として、当初（情報提供前）は 20 代～40 代の男性が上位でしたが、情報提供後、最終的な意向者の上位は 30 代～40 代の女性が占める結果となりました。

里親になる意向があると回答した人のデモグラフィック属性

		【当初の里親意向者】 (スクリーニング調査) ※情報提供前に意向ありと答えた層	【最終的な里親意向者】 ※情報提供前も後も意向ありと答えた層と、情報提供後に里親意向ありに変わった層
ボリューム（推計）		6.3%	12.1%
女性比率		38.6%	51.5%
平均年齢		41.9 才	49.0 才
性×年代（上位 3 位）		<ul style="list-style-type: none"> 男性 30 代（15.6%） 男性 20 代（14.5%） 男性 40 代（13.2%） 	<ul style="list-style-type: none"> 女性 30 代（14.0%） 女性 40 代（13.7%） 男性 40 代（12.9%）
既婚率		59.0%	82.4%
子あり率/末子の学齢 (※最も比率が高い学齢)		50.4%/－	70.6%/社会人（24.3%）
世帯年収		672.8 万円	704 万円
職業、宗教など ※特徴的な項目 のみ掲載	保育士・幼稚園教諭	4.0%	3.9%
	宗教を信仰	8.6%	8.2%
	<同居人が> 肉体労働を伴う職業	9.7%	7.9%
可処分時間（平日/休日）		－	4.7/7.7 時間
可処分所得		－	39,733 円

*－はスクリーニング調査での未聴取項目

調査を終えて

～潜在的な里親世帯は全国に約 100 万世帯～

本調査の結果では全国の約 6%に里親の意向があり、里親候補として考えられる 30 代～60 代の「夫婦のみの世帯」と「夫婦と子どものみの世帯」から生活保護世帯を除いた数がおおよそ 1,780 万であることから、約 100 万世帯が潜在的な里親候補者であると推計されます。

日本で里親のリクルートに取り組んでいる特定非営利活動法人キアセットによると、里親に関する問い合わせのうち、実際の里親登録にまで至る割合は 2～3%程度であることから、2～3 万世帯が里親登録に至るポテンシャルがあると考えられます。

一方、本調査から明らかになった通り、里親については一般にほとんど認知されていないのが実態です。従来のコミュニケーション（シンポジウムや里親説明会など）だけでは、潜在的な里親候補者に十分にアプローチすることは困難だと推測されます。里親の認知を高める主な情報源として、テレビや新聞が大きな役割を果たしていることがわかり、国や地方自治体には、こうしたマス向けのメディアを利用しつつ、地域の住民にも里親制度について丁寧に説明していく両輪のアプローチが不可欠です。

里親になるのは難しいと思っていた人が、本調査を通じて里親についての情報を得て、「自分にもできる」と考えて里親になる意向が高まり、結果として里親の意向者の割合が推計上高まったように、今後里親を必要とする子どもの存在や、里親になった際に受けられるサポート等について情報を発信し、正しい認知に基づいた意向者を増やす、という取り組みを全国レベルで実践していくことで、子どもは家庭で育つことを原則とする改正児童福祉法の理念の実現に近づくと考えます。その実践にあたっては、民間のリソースも活用しながら里親のリクルートや、登録後の里親支援などを行い、子どもを家庭で支える里親を、社会全体が支えていくという体制作りが求められています。

渡邊守氏 コメント

(特定非営利活動法人キアセット代表)

調査としては希望が持てる数字です。これまで国内で里親リクルートを実践してきた経験からは、問い合わせから登録にいたるのは約 2～3%程度で、これは海外の Key Asset グループとほぼ同じ割合です。また、必ずしも夫婦と夫婦＋子ども世帯に絞る必要もなく、独身でも元気な母親と同居していたり、単身でも地域との深いつながりがあったりする世帯は里親家庭になりえます。

一方、数ばかりでなく、養育の質を伴った里親を増やすことも重要です。現在、里親を育成する専門家も専門機関も不足しており、そこにまず着手しなければ、里親委託が増えたとしても、不調の件数も増えることは想像に難くありません。これだけの里親意向者がいるのであれば、今後 3 年～5 年かけて専門機関の整備に取り組むことで、質も伴った里親を十分な数、獲得することも可能であり、早急に官民が手を携えてその整備に着手するべきと考えます。

■調査概要

- 調査実施主体 : 日本財団
 (調査委託先: 株式会社シタシオンジャパン)
- 調査協力 : ボックスグローバル・ジャパン株式会社
- 調査手法 : 定量調査
 スクリーニング調査 7 問 / 本調査 30 問
- 調査方法 : インターネット調査
- 調査時期 : 2017 年 11 月 24 日 (金) ~ 2017 年 11 月 28 日 (火)
- 調査内容 : 里親に関する意向、里親制度に対する認知など
- 調査対象 :

【A:スクリーニング調査】

全国 20 代~60 代の男女 (人口構成比に合わせて回収) 10,000 サンプル

【B:本調査】

上記のうち以下にあてはまる全国 30 代~60 代の男女 1,500 サンプル (※)

- 里親になることができる属性に合致する
- 2人以上の大人が同居している (婚姻状況は不問)
- 本人/同居家族ともに
 - ✓ 生活保護を受けていない
 - ✓ 要介護者ではない
 - ✓ 犯罪歴なし
- 里親経験なし

(※) サンプル割付

里親の意向あり 700 サンプル

里親の意向なし 800 サンプル

×性年代別 均等割り付け

	里親の意向あり				里親の意向なし			
	30代	40代	50代	60代	30代	40代	50代	60代
男性	87	87	88	88	100	100	100	100
女性	87	87	88	88	100	100	100	100
	700				800			
	1,500							